

長期的な目線で子どもの将来を考える

2月20日(金)

3年生は、一般入試まで約3週間となりました。今年度よりシステム受験になっており公立高校(3月受験)学力検査の出願が始まります。27日(金)の正午までとなっています。各学年の授業を見学していると自然に学び合いができていっている様子が見とれて成長を感じます。～あるニュースで、90代の女性がエクセルの表計算を駆使しながら、大阪の専門商社の経理としてバリバリと働かれている様子が紹介されていました。フルタイムだそうです。女性は「働くことに喜びを感じています。工夫をすればどんどん楽しくなる仕事に我を忘れて没頭してしまう」と話されていました。また、「私に定年はない。働けるかぎり、いつまでも頑張る」と生涯現役を誓われていました。今の子どもたちの未来について考える際、避けて通れないのが急速なグローバル化やAI(人工知能)化の影響です。グローバル化と同時に、人口減少により国内市場は縮小していくとの見通しから、日本企業は海外市場に活路を求めています。そのため、海外大学出身の日本人や日本の大学出身の外国人の新卒採用が増えるとみられます。また、AIの能力が人間を超えるといわれる2045年までには、多くの仕事がAIに取って代われ、なくなるともいわれています。このように「先行きの不透明さ」を強調するニュースが多いと、私たちの発想は「就職に不利にならないように英語は不可欠」「AIに仕事を奪われないようにICT技術はしっかり身につけさせたい」といった「リスク回避」の方向に行きがちです。子どもにつらい思いをさせたくないのは、保護者として当然の気持ちだと思います。しかし、「～しないように」と先回りするリスク管理の発想は、実は子どもの将来を縛ってしまうこともあるのではないのでしょうか。また、最近「75歳」という年齢がクローズアップされています。定年を70歳とし、希望者は75歳まで働ける社会をといた議論も始まっているようです。その是非は別として、平均寿命などの伸長を考えると、今の子どもたちは75歳まで働く可能性は高いと考えられます。また、企業の統廃合が激しくなり、「終身雇用制」が崩れつつある今後は、1企業で40年以上永年勤続できるとは考えにくいでしょう。同じ企業や業種の仕事で一生を終えられるとは限りません。いわば「二毛作」「三毛作」の人生が一般的になってくるのではないのでしょうか。そうになると、必要となるのは「方向を変える力」や「再び立ち上がる力」だと思います。環境や業種が変わっても、その中で自分らしさを生かせる働き方を見つけて、幸せに生き抜く力、「自分はどこでも生きられる」という自信とたくましさ、今後ますます必要になるのです。 ※2年生平和学習風景

